

1 「青天の霹靂」の安定生産と食味のレベルアップ

～「生産指導カルテ」と「青天ナビ」を活用した個別指導の展開～

【概要】

「青天の霹靂」生産者ごとに作成した「生産指導カルテ」と、ブランド米生産支援システム「青天ナビ」を活用し、生産指導プロジェクトチームが一体となって、収量の安定と食味のレベルアップに取り組んだ。

【対象名】

- ・青森農協生産者部会（51名）
- ・集荷組合作付生産者部会（3名）
- ・(株)KAWACHO RICE生産者（6名）

[延べ60名、重複5名、実数55名]

【背景・課題】

- ・東青管内の平成30年産「青天の霹靂」の平均収量は7.5俵/10a（前年8.0俵/10a）、玄米タンパク質含有率6.0%以下の割合は51.2%（同70.2%）といずれも前年を下回り、生産目標（収量9.0俵/10a、玄米タンパク質含有率6.0%以下）に達しなかった。
- ・「青天の霹靂」は収量と食味に年次変動があり、安定生産が望まれることから、収量の向上と食味のレベルアップを目指し、生産目標未達者と新規作付者をターゲットとした。

【普及指導活動の内容】

- ・生産目標である収量9.0俵/10aと玄米タンパク質含有率6.0%を基準に生産者を4つにランク分けし（下図参照）、H30にいずれも基準に達していないDランクの生産者と新規作付者合わせて30名を重点指導対象者とした。
- ・個人ごとの出荷データを基に栽培のポイントをまとめた「生産指導カルテ」と、「青天ナビ」を活用して、生産指導プロジェクトチームが一体となって、ほ場ごとに追肥の診断や刈取適期の判定など、きめ細かな個別指導を行った。

【成果】

- ・令和元年産におけるDランクへの格付者は8名に減少し、管内の平均収量は8.7俵/10a、玄米タンパク質含有率6.0%以下の割合は85.1%に向上した。
- ・また、生産目標未達の生産者及び地域が固定化していることを把握できたことから、次年度以降の個別指導に役立てることとした。

平成30年産			令和元年産		
	6.0%以下	6.1%以上		6.0%以下	6.1%以上
9.0俵以上	A 2名	C 4名	9.0俵以上	A 14名	C 5名
9.0俵未満	B 19名	D 28名	9.0俵未満	B 27名	D 8名
		新規作付者 2名			
	<重点指導対象者>		Dランク・新規作付者 30名を8名に		

平成31年産「青天の霹靂」生産指導カルテ

団体名 ○○○○		支店名 ○○○○									
生産者名 ○○○○											
H30年産出荷実績											
出荷基準達成率	33%	<table border="1"> <tr><th colspan="2">H31産目標</th></tr> <tr><td>100%</td></tr> <tr><td>100%</td></tr> <tr><td>9.0俵/10a</td></tr> <tr><td>100%</td></tr> <tr><td>6.0%以下</td></tr> </table>		H31産目標		100%	100%	9.0俵/10a	100%	6.0%以下	
H31産目標											
100%											
100%											
9.0俵/10a											
100%											
6.0%以下											
玄米たんばく6.0%以下	0%										
収量	5.3俵/10a										
1等米比率	100%										
玄米タンパク質加重平均	6.6%										
H30年産生産実績											
作付ほ場の溜田の割合	100%	<table border="1"> <tr><th colspan="2">H31産改善点</th></tr> <tr><td>乾田・半溜田への作付</td></tr> <tr><td>70株/坪以上</td></tr> <tr><td>5月20日前後</td></tr> <tr><td>基肥6.0kg/10a</td></tr> <tr><td>保葉影響の実施 一中止、1=2kg/10a</td></tr> <tr><td>幼穂形成期 積算気温、穂の黄化程度等 から総合的に判断</td></tr> </table>		H31産改善点		乾田・半溜田への作付	70株/坪以上	5月20日前後	基肥6.0kg/10a	保葉影響の実施 一中止、1=2kg/10a	幼穂形成期 積算気温、穂の黄化程度等 から総合的に判断
H31産改善点											
乾田・半溜田への作付											
70株/坪以上											
5月20日前後											
基肥6.0kg/10a											
保葉影響の実施 一中止、1=2kg/10a											
幼穂形成期 積算気温、穂の黄化程度等 から総合的に判断											
坪当たり栽培密度	79株/坪										
田植	5月18日										
基肥	つがるロマン050 6.0kg/10a										
追肥	NK68号 1.9kg/10a										
追肥時期	7月19日										
収穫時期	9月23日										
次年度栽培の改善点											
タンパク：高めです。											
収量：向うの余地があります。											
対策1：育苗育成、移植後の水管理により初期生育を促進する。											
対策2：栽培密度を70株/坪以上とする。											
対策3：生育が遅れた場合は追肥を中止する。											

2 トマト指定産地の生産力向上

～省力的な誘引方法の導入支援と新規作付者の育成支援～

【概要】

トマト栽培の誘引方法で省力・低コスト化に有効な2本仕立てUターン誘引の導入支援を行った。

また、新規作付者が増加しているミニトマト部会に対しては、個別成績表を基に個々の課題解決を支援した。

【対象名】

青森農協トマト部会
青森農協ミニトマト部会

【背景・課題】

- ・青森農協では、令和3年を目標年度とする指定産地の産地強化計画において省力・低コスト化に有効な「2本仕立てUターン誘引栽培」の普及を推進している。
- ・ミニトマトは新規作付者が増加しており、生産者間の収量・品質のバラツキが見られている。

【普及指導活動の内容】

- ・現在、一般的に行われている「1本仕立てつる下げ誘引栽培」と比較して、「2本仕立てUターン誘引栽培」は、省力化と種苗費や労働費の低減につながることから、JAと連携して導入支援を行った。
- ・2本仕立てUターン誘引栽培の実践農業者ほ場での「2本仕立てUターン誘引栽培講習会」や、「冬期講習会」等で周知した。
- ・ミニトマトについては、個別成績表を基にした個別巡回指導や先進農家との情報交換会を実施した。

【成果】

- ・「2本仕立てUターン誘引栽培講習会」には、毎回20名以上の参加者があり、令和元年度の導入農家戸数は、平成30年度の28戸から34戸に増加した。
- ・個別成績表を基にした巡回指導では、個々の課題の意識付けを行うことができた。
- ・情報交換会では、ベテラン農家と若手農家の間で栽培技術に関する活発な意見交換がなされ、若手農家ばかりでなくベテラン農家にとっても良い技術研さんの場になった。



2本仕立てUターン誘引栽培講習会



ミニトマト部会の情報交換会

3 商品力が高い大粒品種ぶどうの普及拡大

～青森市ぶどう協会への普及拡大支援～

【概要】

栽培技術の向上により、商品力が高い「シャインマスカット」の早期普及拡大を目指す。

また、「シャインマスカット」に次ぐ商品力が高い新品種の地域適応性把握と、導入拡大を目指す。

【対象名】

青森市ぶどう協会（20名）

【背景・課題】

- ・「スチューベン」や無核化処理が必要な「バッファロー」、「イタリア」を主体としたブドウ生産が行われてきたが、価格低迷や高齢化で、栽培面積は縮小傾向。
- ・「シャインマスカット」は、6年前に一部で導入され、市場評価や消費者ニーズが高いことから、新規栽培者が増えており、栽培技術の早期普及が必要である。

【普及指導活動の内容】

- ・新品種栽培展示ほを2か所（青森、今別）に設置して、2品種（シャインマスカット、コトピー）の栽培特性及び地域適応性を把握し、会員に情報提供を行った。
- ・無加温ハウスの栽培管理、無核化処理、秋季剪定等の栽培講習会を開催し、栽培技術の向上を図った。
- ・果房管理や収穫適期の判定について栽培講習会を行い、高品質生産に向けた技術と意識の向上を図った。

【成果】

- ・展示ほのシャインマスカットは、県指標（糖度18%、1粒重13g）を上回る糖度19%、粒重15gの高品質果実が生産された。
- ・稲作・野菜農家1名が、新規に水稻育苗ハウスで栽培を始めたほか、協会会員が新たに苗木を22本導入・定植した。
- ・栽培面積は、1.4ha（H30）から1.5haに増加した。



現地栽培講習会



水稻育苗ハウスでの栽培を指導



シャインマスカット及びコトピー

4 農山漁村女性の意欲・能力を生かした起業活動の推進

～起業活動を軸にした農山漁村女性の活躍の場作り～

【概要】

事業の活用や個別相談により、起業活動を実践している女性起業家等の経営力向上を図った。

また、農山漁村女性の加工技術を生かした起業活動に向け、研修会の開催や加工施設の整備等について支援した。

【対象名】

農山漁村女性
集落営農法人
大規模生産者 等

【背景・課題】

- ・地域活性化等につながるとして期待されている女性起業等について、活動を継続していくための経営力向上が課題である。
- ・集落営農法人等における起業活動の取組支援により、農山漁村女性が地域で活動しやすい環境づくりが求められている。



自然光を生かした商品の撮影方法を研修

【普及指導活動の内容】

- ・実践力向上のためセミナーを3回開催し、消費税や食品表示、商品写真の撮り方等の基礎知識や技術の習得を図った。
- ・補助事業の活用や、経営内容の見直し等により起業の経営力を向上するよう働きかけた。
- ・起業に関心のある法人等の掘り起こしをし、農山漁村女性の技術を生かす環境作りを支援した。
- ・管内の起業活動や起業セミナーの内容を紹介する情報紙を2回発行した。



みそ製造の加工体制について熱心に質問

【成果】

- ・1名が補助事業を活用して直売所を整備したことで、販売額の増加やリピーターの定着につながった。また、起業に取り組む若手女性農業者1名を掘り起こした。
- ・外ヶ浜町にある任意組織と自治会において、それぞれで加工施設を整備し、みその試作やもち等の加工・販売活動を開始したことで、働くことに意欲的な高齢者等の活躍の場となった。

5 地域経営を担う集落営農組織等の法人化と経営改善支援

～集落営農法人の持続可能な生産体制の構築～

【概要】

昨年度設立された「東青地域集落営農ネットワーク協議会」において、法人間連携や広域組織化に係る検討会、先進地視察研修、高収益作物の栽培実証、経理・労務管理などの勉強会を実施した。

【背景・課題】

管内の集落営農法人の共通の課題である高収益作物の導入による収益の向上、経理やオペレーターを担う人材の確保などに対し、持続可能な法人経営とするために法人間連携などの解決策に取り組んでいる。

【普及指導活動の内容】

- ・持続可能な集落営農法人の在り方を検討し、集落営農ビジョンを作成した。
- ・法人間連携の先進地である広島県を視察し、当管内での連携活動について検討した。
- ・広域連携法人の設立、消費税軽減税率への対応、労務管理について専門家を招いて勉強会を開催した。
- ・高収益作物導入に向け、ミニトマトやたまねぎ等の栽培実証ほを4法人に設置し、栽培や収益性を検討した。

【成果】

- ・ネットワーク協議会を開催することで、参加する12法人の経営実態や各法人が抱える課題を関係者が共有することができ、それぞれの持つ経験やノウハウを提供し合い解決する関係が構築された。
- ・広域連携法人を検討してきた結果、外ヶ浜町の6法人が出資して広域連携法人「株式会社アグライズ外ヶ浜」が設立された。

【対象名】

落
農
人
1
法

集
営
法
2
人



高収益作物の現地検討会



広島県視察研修